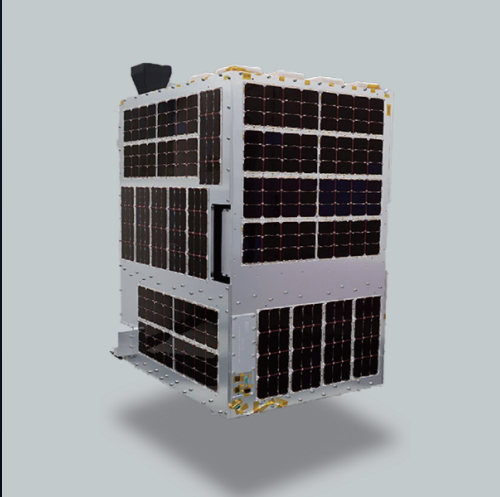


PYXIS

AxelLiner が
今後の衛星活用ビジネスの
羅針盤になることを目指して



PYXIS (ピクシス) は、アクセルスペース 10 機目となる小型衛星です。
2022 年 4 月に発表した新サービス「AxelLiner (アクセルライナー)」の初号機で
AxelLiner が今後の衛星活用ビジネスの羅針盤になることを目指して名付けました。
PYXIS とは、らしんばん座のことで、航海用のコンパスを意味しています。

PYXIS のミッション

1. AxelLiner の汎用バスシステムの実証
2. 次世代 GRUS (自社小型地球観測衛星) 向けセンサー先行実証
3. ソニーグループによる通信システムの実証

従来の一品生産による衛星開発は、長納期で大きなコストがかかるものでした。
AxelLiner では、衛星の基盤部分となるバスシステムについて汎用化を図り、
どの衛星でも利用可能となるよう開発を進め、今回 PYXIS で実証を行います。
今後は、衛星の同時開発も視野に入れた量産体制の構築を通じて、
従来では受注から打ち上げまで約 3 年かかっていた期間を約 1 年に短縮し、さらに、
より安価な提供の実現を目指します。これによって、ユーザーの衛星活用における
負担を大幅に軽減するとともに、小型衛星へのニーズの急速な高まりに迅速に
応えられるようになります。

また、AxelLiner では、ビジネス検証段階から衛星開発、打ち上げ、軌道上運用、
運用終了後の廃棄までの長く複雑な工程をパッケージ化し、ワンストップでの
サービス提供を通じてユーザーエクスペリエンスの革新を実現します。

Sustainability への取り組み

Green Spacecraft Standard

アクセルスペースは、宇宙の環境問題にも取り組んでいます。
衛星開発から軌道上運用、廃棄に至るまでの衛星ライフサイクル全体を包括した
独自のサステナビリティに対するルールを設定し、
宇宙機量産アライアンスメンバーとともに取り組んでいます。

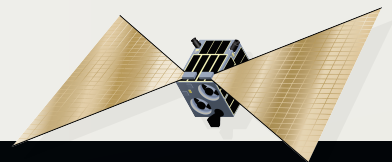
- ・ Sustainability for Earth: 衛星設計、製造プロセスでの地球環境の持続可能性
- ・ Sustainability for Space: スペースデブリなど軌道上環境の持続可能性



D-SAIL

運用を終了した小型衛星が軌道から大気圏突入するまでの
期間を短縮します。D-SAIL は、起動すると大きな膜面を展開します。
これにより地球低軌道上に存在する薄い大気が抵抗として働き、衛星の速度を
減速させ軌道高度を低下させます。これにより、衛星運用終了後、
大気圏に突入するまでの時間を短縮することができます。

詳しくは AxelLiner のページをご覧ください。



顧客名 : 株式会社アクセルスペース
ソニーグループ株式会社
サイズ : 1250mm×1000mm×750mm
質量 : 約 145kg
投入軌道 : 太陽同期軌道
高度 500~600km
打上日 : 2024 年 3 月 5 日 7 時 5 分 (日本時間)
打上機 : Falcon 9 (Transporter-10)
現在 : 実証運用中

会社概要

AXELSPACE

株式会社アクセルスペース

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町三丁目 3 番 3 号 Clip ニホンバンビル

問合せ : info@axelspace.com

URL : www.axelspace.com/ja/

